

「コラージュ技法」を活用した学級活動の実践例（小5）

1 実践のねらい

- 本学級では、予防的・開発的カウンセリングに関する活動を「ココロねっこタイム」と称し、主に学級活動の時間に取り組んでいる。今回は、学校生活における不安や悩みの解消と、望ましい人間関係の育成を推進するための手立てとして、芸術療法を学級活動に取り入れた。芸術療法とは、様々な芸術活動を行う中で、心に落ち着きと癒しをもたらす技法である。手法としては、箱庭療法、絵画療法、音楽療法など多岐にわたるが、それらの多くは、特別な知識や十分な経験が必要とされるため、十分な訓練を受けたカウンセラーにしか実践できないものが多い。しかし、そのような中で、私たち教師にも活用できる芸術療法の技法がある。それがコラージュ技法である。
- コラージュ技法では、雑誌などから心にとまるものを自由に切り抜き、紙にのり付けて作品づくりをすることで、自分の気持ちを表現したり、気分をすっきりさせたりすることができる。一人一人のストレスを発散させることで、学級全体の緊張感を和らげ、コミュニケーションを促進させることをねらいとして実践を行った。

2 実践のポイントと留意点

(1) ゆとりをもった計画を立てる。

コラージュによる癒し効果を十分に引き出すには、ゆとりをもった計画が大切である。いきなりグループコラージュから行った場合、要領を得ずに不完全燃焼で終わってしまうことも考えられる。そこで、まずは個人コラージュを行い、児童にコラージュをしっかりと体験させるところから始めた。コラージュの活動では、様々な場面で癒し効果が期待できる。雑誌をパラパラ見たり、ハサミで切ったり、のり付けしたりする中で、遊び心が刺激され、自発的な想像力が高まる。少しずつ作品が形になる中で、気持ちが解放されていく。そして、作品を創り上げることにより、達成感や満足感を味わうことができる。このような、芸術療法ならではの「心地よさ」を体感することで、児童の気持ちは癒されていくと考えられる。

初めてのコラージュに戸惑う児童の緊張感を和らげるため、一回目のコラージュでは、教師も同じ教室で一人の参加者として作品づくりを楽しんだ。これはカウンセリングの現場でも「相互法」と呼ばれて取り入れられている手法で、参加者の抵抗感を和らげる効果がある。

(2) グループコラージュを通して心の交流を図る。

グループコラージュの方法は様々だが、今回の実践では、個人コラージュで、ある程度作品をつくった後、グループの仲間に切り抜きをプレゼントし、受け取った切り抜きで作品を仕上げる活動に移行する場面を設定した。この活動では、通常の個人コラージュよりもさらに「心地よさ」を味わうことができると考える。それは「仲間と気持ちが通い合っている」という心地よさである。相手のイメージに合う切り抜きを選ぶ活動を通して他者理解を促すとともに、自分に合った切り抜きをプレゼントされる経験を通して仲間に理解されているという肯定的な感情を味わわせることをねらいとしている。普段の関係ではなかなか一緒に遊んだりすることが難しいような間柄であっても、グループコラージュを通して心の交流を図ることも十分可能だと考えられる。

(3) 作業中は私語をしない。

多くの児童にとっては初めての経験になると考えられる。楽しそうな内容にワクワクする子は、自分のひらめきを誰かに語りたくなるかもしれないし、また、作業の見通しが立たず不安になる子は、進んでいる友達に相談したくなるかもしれない。しかし、この時間はあくまでも「自由な気持ちで自分の作品をつくる」ことが大前提である。すべての児童が自分のイメージを楽な気持ちで表出できるようにするため、作業中は落ち着いた雰囲気づくりを心がけた。

(4) 児童の作品に対して批判やアドバイスをしない。

コラージュ技法は、芸術的な美しさを追求する活動とは異なる。様々な写真をたくさん貼ったものも、数枚だけ貼ったものも、整理された感じがするものも、大胆な感じがするものも、いずれも作品としての優劣はない。大切なことは、児童それぞれが表現した「自分の世界」を、私たち教師がそのまま受け入れて認めることである。作業中はコメントをせず、やさしくほほえむ、黙ってうなずくなどの肯定的なメッセージを込めた態度に徹した。作品に対してコメントする場合は、肯定的な内容になるよう心がけた。

(5) 暴力的・性的なものが出過ぎないように配慮する。

特にグループコラージュを行う場合は、渡した切り抜きで相手がショックを受けないための配慮が必要である。切り抜き用の雑誌を家から持ってくる際、過激な内容のものは控えるような約束をした。学級通信などでコラージュの取り組みを伝え、児童が持参する予定の雑誌を確認していただくようにするのも一つの方法と考える。

【コラージュの例】



3 実践事例

(1) 目標

- ① 自分の作品を振り返る活動を通して、自己理解を深める。
- ② 相手のイメージに合った絵や写真を探したり、もらった切片でコラージュを作成したりすることにより、気持ちを交流する喜びを味わう。

(2) 指導計画（全2時間）

第1時 個人でコラージュを完成させる。

第2時 仲間からもらった切片を用いてコラージュを完成させる。……………本時

(3) 本時

過程	学 習 活 動	教師の手立て・留意点
導入 5分	1 本時の活動内容について理解する。	<p>○事前に次のものを準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色画用紙（8切）…台紙として使用。何色か用意し，気分合うものを自由に選ばせる。 ・ハサミ，のり，雑誌数冊…各自で準備する。 <p>○次のことを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活班を作って作業をする。 ・好きなもの，気になったものを好きに切りぬいて，自由に貼り付けてよい。 ・自分の作品をある程度つくった後，班の仲間に切り抜きをプレゼントする。 ・プレゼントされた切り抜きを貼り付けていき，作品を完成させる。 ・作業中，私語はしない。作品づくりの邪魔になることはしない。 ・最後に自分の作品を発表する。
展開 35分	<p>2 コラージュに取り組む。</p> <p>3 仲間のイメージに合った切り抜きをプレゼントし，もらった切り抜きで作品を仕上げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は机間指導を行いながら，うなずく，ほほえむ等の非言語による肯定的なフィードバックを心がける。 ・暴力的・性的なものが出過ぎないように配慮する。 ・班の仲間全員にプレゼントするよう言葉かけを行う。
終末 5分	4 感想を書き，発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼントした切り抜きに関する内容を書いている児童を中心に指名して発表させる。

4 児童生徒の変容

(1) 第1回 個人コラージュについて

① 「絶好調のときを100%とすると、今のあなたのココロのエネルギーは何%ですか」という問いに対する児童の回答

- ・ コラージュ実施前 平均 79.2 %
- ・ コラージュ実施後 平均 92.4 %

② 授業後の児童の感想より（一部抜粋）

《自己表現に関する内容》

- ・ 気に入ったのをきりぬいてはるのもおもしろい。まわりも静かで自分一人の世界をつくれたからまたやりたい。
- ・ とても楽しいです。自分の好きなようにはったり切ったり。なんだか本当に自分だけの世界に入ってしまったようです。切ってはるだけってけっこうたんじゅんだけどとても楽しいです。

《自己治癒に関する内容》

- ・ 作品もなかなかうまくできたのでよかったなと思いました。心がおちついた。
- ・ 最初は「あまりたのしくなさそうだな」と正直思ったけど、やってみたらけっこうたのしくて、家や学校ではあまりしないことをすると、なんか不思議なかんじがしました。
- ・ 自分の世界が『オリジナル』に創れてよかったです。雑誌をいろんな形に切り取って、想像のおりの世界が作れました。『ココロ』がすっきりしたし、ココロのエネルギーがふつうより、絶好調にちかいココロになりました。とても楽しかったです。

(2) 第2回 グループコラージュについて

① 「絶好調のときを100%とすると、今のあなたのココロのエネルギーは何%ですか」という問いに対する児童の回答

- ・ コラージュ実施前 平均 76.8 %
- ・ コラージュ実施後 平均 93.1 %

② 授業後の児童の感想より（一部抜粋）

《関係づくりに関する内容》

- ・ 今回は、班の人にあげたりもらったりして、とつてもたのしかった。ぜひまたできたらいいと思う。今度するときは、2時間くらいやりたい。
- ・ 班の作品に自分がプレゼントした写真などがはってあってうれしかったです。プレゼントをもらったときもうれしかったです。家でもきかいがあったらコラージュをしたいです。
- ・ この前とは違って「プレゼント」があったから、班のいろいろな人から、いろいろな物をもって「少しうれしかった」です。

《自己治癒に関する内容》

- ・ 前やってみたコラージュとちがって、友達からのプレゼントを使ってオリジナルの世界ができました。友達がくれた「プレゼント」がないとつくることできない、すてきな世界がくれたので、よかったです。

- 「絶好調を100%とした場合の、現在の心の状態は」という問いに対して、コラージュ実施前と実施後の平均を比較したところ、1回目（個人コラージュ）の際は平均が13.2%上昇し、2回目（グループコラージュ）の際は平均が16.3%上昇した。このことから、コラージュの活動を通して多くの児童がストレスの軽減を実感できたと考えられる。また、1回目の説明の際には、初めての取組に対して不安な表情を見せていた児童もいた。特に、図工科の取組に関して苦手意識のある児童にとって、その傾向は顕著であった。しかし、活動後の振り返りを見ると「時間が足りない」「もっと雑誌を使いたい」「家でもやってみたい」などの肯定的な表現が目立った。このことから、コラージュは作品の優劣を見るものではないということを児童なりに理解できたとともに、コラージュへの取組が自分たちにある種の心地よさをもたらしたと実感できたのではないかと考える。

5 授業の分析と考察

- 個人コラージュを実践した際には、学級が静まり、一人一人が自分の世界に没頭して作品づくりを行っていた。児童の振り返り内容には「楽しい」「自分の世界が作れた」「気持ちがすっきりした」などの表現が多く使われており、コラージュ技法の治療的側面である「自己表現」「自己治癒の効果」が強く感じられた活動となった。
- グループコラージュでは、表情に明るさがあり、笑い声が絶えない時間となった。児童の振り返り内容には友達からのプレゼントに対する喜びや意外性について書かれていることが多く、非言語のコミュニケーションを通してクラスの仲間と交流することの心地よさが強く感じられた内容となった。
- グループコラージュには、以下のように様々なバリエーションが考えられる。
 - ・本時のように、自分が選んだ切片と友達からプレゼントされた切片で作品を作る。
 - ・相手へのプレゼントのためだけに切り抜きを行い、プレゼントされた切片だけで作品をつくる。
 - ・大きめの画用紙や模造紙を使い、班で一つ（学級で一つ）の作品をつくる。等このようにグループコラージュには、様々なバリエーションが考えられるが、いずれにしても、グループをつくる際には、学級の実情に合った適切な人数を設定することで、心の交流が促進され、仲間と気持ちが通い合う心地よさにつながると考えられる。

